

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立貝塚南高等学校 全日制の課程
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	① 学校教育自己診断（生徒）における授業満足度の肯定的回答の割合向上 外部学力調査における学習習慣の定着および学力結果の向上 ② 授業アンケート（生徒）における「興味関心を持つことができた」、「知識・技能が身についた」の肯定的回答の割合向上 ③ 学校教育自己診断（生徒）における「考えをまとめ、発表する機会がよくある」の肯定的回答の割合向上 ④ ICT 機器を用いた研究授業の実施回数増加、ICT 機器を活用する教員の割合向上
計画名	脱受身！ ～仕かける貝南生～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1. 確かな学力の育成</p> <p>(1) 「わかる授業、考える授業」をめざし授業力向上に取り組む。</p> <p>ア 学力向上委員会を核に相互授業観察、研究授業などの計画的実施、授業アンケートの効果的活用など、授業改善に組織的に取り組み、ICT 機器を活用した効率的な授業についても研究を進める。</p> <p>2. 安全安心で魅力のある学校づくり</p> <p>(2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己肯定感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。</p> <p>ア クラブや文化祭などの生徒の自主的な活動を活性化させるために、仲間と協力して内容の充実をめざすよう教職員が支援する。</p>
事業目標	<p>本校の生徒は自尊感情の低さゆえに、自己表現力の弱い傾向が見られる。授業中に自分の意見や考えを発表することに消極的で、自ら行動を起こすことは少ない。その打開のために、授業で発表する機会を増やそうとするが、効果を得ることができず、多数の生徒は「受身」で50分を漫然と過ごしている生徒が多いのが現状である。そこで、「ICT 機器を効率的に活用した能動的授業」を推し進め、「受身」な生徒から脱却し、「仕かける」生徒へと変貌させる。特に次の4点を徹底する。</p> <p>① ICT 機器を用いた視覚教材の活用に取り組む。プロジェクターの投影により、非日常的空間をつくり、その中で生徒に活動させる。「わかる!」「できた!」という喜びを生徒に与え、『できればやる』ではなく『やればできる』という意識をもった生徒を育む。</p> <p>② 板書の時間短縮を図り、実践・実験・実習等のアクティブラーニングの時間を確保し、生徒の能動的な学習時間を増やす。</p>

	<p>③ プロジェクターを使用し、生徒によるプレゼンテーションを多く取り入れ、自ら調べて学習する姿勢をつくり、発表する力をつけさせる。</p> <p>④ 「相互授業観察」、「充実した研究授業の実施」を推進し、ICT 機器を効率的に活用した授業力向上に取り組む。組織的に「わかる授業、考える授業」をめざした取組みを行い、授業満足度および学力の向上を図る。さらに、生徒の自主的な活動を活性化させ、学校生活の充実を図り、学校満足度を高める。</p>
<p>整備した 設備・物品</p>	<p>電子黒板機能付短焦点プロジェクター 20 台（全 20 教室）</p>
<p>取組みの 主担・実施者</p>	<p>主 担：首席を主とした学力向上委員会 実施者：全教員</p>
<p>本年度の 取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上委員会が中心になり、授業観察、研究授業の実施（通年） ・外部学力調査の結果の分析（5 月・10 月）・ICT 機器活用研修の実施（1 月） ・各教科にて ICT 機器を活用した研究授業実施 ・ICT 機器を先進的に活用している学校の視察（10 月） ・授業アンケート結果を受けて、教科での分析・改善の実施（8 月・1 月） ・各教科で ICT 機器を活用した授業の教材の集約、共有（2 月） ・学校教育自己診断等の結果の分析と情報共有（2 月） ・今年度の取組みに関して分析、改善に向けて検討（2 月） ・総合的な探究の時間を使いプレゼンテーション指導、学年でのプレゼンテーション大会実施（2 月）
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<p>① 学校教育自己診断（生徒）：授業満足度を 65%にする。 学力調査（学力結果）GTZ の A・B ゾーン生徒数。1 年 4 月から 2 年 4 月で維持・向上をめざす。</p> <p>② 授業アンケート（12 月実施）：「興味関心を持つことができた」のよくあてはまるを 33%にする。「知識・技能が身についた」のよくあてはまるを 35%にする。</p> <p>③ 学校教育自己診断（生徒）における「考えをまとめ、発表する機会がよくある」の肯定的回答を 60%にする。</p> <p>④ ICT を用いた研究授業を 4 回行い、ICT 機器を活用する教員の割合を 70%にする。</p>
<p>自己評価</p>	<p>① 学校教育自己診断（生徒）：授業満足度 58% ……………（△） 学力調査（学力結果） 45 期生 1 年（A 1 名・B 28 名） → 2 年（A 1 名・B 29 名） 1 年次はプロジェクターがなかったが、導入後の 2 年次に成績が伸長した。</p> <p>② 授業アンケート（12 月実施）：「興味関心を持つことができた」のよくあてはまる。30% 「知識・技能が身についた」のよくあてはまる 29% ……………（△）</p> <p>③ 学校教育自己診断（生徒）における「考えをまとめ、発表する機会がよくある」の肯定的回答 57% ……………（△）</p> <p>④ ICT 機器を用いた研究授業 5 回、ICT 機器を活用する教員の割合 78% ……………（○）</p>

	<p>評価指標のうち、ICT 機器を用いた研究授業および ICT 機器を活用する教員の割合は指標より高い。その他 1 の数値は、プロジェクターの活用が着実に進んでいることがわかる。その他の取組み相互授業観察（計 43 回実施）、研究授業 6 回、学力向上に関する研修会 3 回実施等、授業力向上の取組みは順調に行えた。</p>
<p>事業のまとめ</p>	<p>経営推進費で設置したプロジェクターを効率的に活用し、今後も授業力向上に向けて、学校全体で取り組む。</p> <p>具体策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学力向上委員会が中心になり、授業観察、研究授業の実施（通年） ・ 外部学力調査の結果の分析（5 月・10 月）・ICT 機器活用研修の実施（9 月・11 月） ・ 各教科にて ICT 機器を活用した研究授業実施（11 月） ・ ICT 機器を先進的に活用している学校の視察（10 月） ・ 授業アンケート結果を受けて、教科での分析・改善の実施（8 月・1 月） ・ 各教科で ICT 機器を活用した授業の教材の集約、共有（2 月） ・ 学校教育自己診断等の結果の分析と情報共有（2 月） ・ 今年度の取組みに関して分析、改善に向けて検討（2 月）